

危険予測学習の進め方(例) - 一時停止線無視の危険(坂道走行の危険) -

学習内容	指導上の留意事項等
①交通状況の読み取り (個人～発表)	<p>この絵はどんな場面だと思いますか。絵を見て考えられることを発表してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らが自転車運転者の立場となって、状況を詳しく把握させる。 ・言葉で表現し、発表させる。 (道路状況、子どもの状況、自転車の状況等) ・児童に次のような状況を読み取らせる。 自転車に乗って坂道を下っていたとき、だんだんとスピードがついてきたので、交差点前でブレーキをかけた。 ところが、スピードが出すぎていたため、ハンドルがとられてガタガタとゆれ、こわくなってきた。
②危険の予測・重大な危険の絞り込み (発表～話し合い)	<p>このままAさんが進んだら、どのようなことが起きると思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この場面で起こり得る危険・事故をできるだけ多く発見・予測させ、その理由を述べさせる。 ・どのような意見でも肯定的に受容する。 ・車の運転者の立場に立った危険も予測させたい。 ・ブレーキの利きがよくない場面の想定について是非取り上げたい。 <hr/> <p>「ありそうな危険・起こりそうな事故」のなかで、大変だと思う危険・事故を選びましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを用いて、◎や○を付けさせるのもよい。
③回避方法の考察	<p>そのような事故にあわないためにはどうしたらいいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絞り込まれた危険・事故に対し、どのようにしたら危険が回避できるか、話し合わせる。 ・運転者が陥りやすい心理なども考え、最もふさわしい行動を話し合わせる。 ・選んだ回避方法の理由を明らかにさせる。
④まとめ	<p>これから気をつけることを自分の言葉で短くまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ワンポイント行動目標」として一言でまとめさせる。 例：「自転車のブレーキを点検する」「坂道ではスピードを出さない」等

※ 一斉学習だけでなく、導入後、4、5人のグループに分けて、①②③の活動を行い、最後に、グループごとにまとめを発表させる方法もよい。

※ グループで進める場合は、簡単なワークシートを作成し記入させるとよい。

安全上の望ましい行動	<p>① 日頃から、自転車のブレーキ等の安全点検をしておくことが、極めて大切である。坂道でのブレーキワイヤーの切断などのトラブルは、非常に危険である。 不備が見つかったらすぐに修理する。また、定期的に点検する。(教則第3章第1節2参照)</p> <p>② 坂道では加速度的にスピードが出る。 スピードを抑え、緊急の事態に備える走行を常に心掛けることが大切である。(教則第3章第2節2(1)参照)</p> <p>③ 一時停止の標識・表示があるところでは、必ず一時停止し、左右の安全を確認してから、交差点に入る。(教則第3章第2節3(2)参照)</p> <p>④ 坂道でのブレーキの掛け方にも注意する。(教則第3章第2節2(1)参照) 前輪ブレーキを先にかけたり、急激にブレーキ操作をしたりすると、体が前方に投げ出される危険がある。日頃から、後輪ブレーキでスピードを制御し、必要な場合は前輪ブレーキをかけるなど、ブレーキ操作の仕方の基本を練習しておく。</p>
------------	--